

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 及び学力向上への取り組みについて

羽曳野市立古市南小学校

【実施日・対象学年】

令和6年4月18日木曜日 第6学年

【調査目的】

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査内容】

教科に関する調査

国語・算数・・・出題範囲は、原則として前学年までに含まれる指導事項となる。

出題内容は下記（１）と（２）を一体的に問う。

- （１）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （２）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童質問紙調査・・・調査する学年の児童を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

【本校児童の特長と課題】

【特長】

国語・・・全体的な正答率は、大阪府平均と全く同値であり、全国平均とも同等の値であった。

中でも、「言葉の特徴や使い方」に関する問題や、漢字の知識を問う問題の正答率が高い。さらに、目的や意図に応じて集めた材料を分類し、伝え合う内容を検討するような問題に関しては、全国平均を大きく上回った。

問題形式としては、選択式の問題で、9問中6問が、全国平均を上回る高い正答率を見せた。

算数・・・数量の関係を未知数を使って式に表す問題では、9割近い正答率であった。表から必要な数値を読み取って立式し、判断する問題に関しても、正答率は高く、情報と式を繋げて考えることに関して、高い結果となった。

除法・小数を扱った問題、図形の長さ、面の理解に関しても、全国平均を大きく上回る正答率となった。

解答が、選択型でも、記述型であっても、全国平均値と同等であったため、問題形式によって、正

答率のばらつきがほとんどないことも、特長といえる。

質問調査・・・生活習慣に関しては、朝食をとっていることや、睡眠について、全国平均値よりも良い結果であった。放課後の生活でも、読書やスポーツに親しんでいる割合が高い。学校生活習慣においても、先生との関係や、学校が楽しいなどの質問で、肯定的回答が多く、満足している様子が見られる。

学校生活における学習に関する思いに関しては、既習事項を生かして次の学習に取り組み、実生活に生かしていこうという考えに高い数値が見られた。ただし、全国平均と比べると、「当てはまる」「よくある」などの回答よりも、「やや当てはまる」「ときどきある」などの2番目の回答を選ぶ傾向があった。

【課題】

国語・・・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用し、表現の工夫をすることに課題がある。例えば、話し方を場面によって変えることについて理解してはいるが、その工夫を思考し、判断することは難しい傾向がある。事実・感想・意見を区別して捉え、表現の工夫に生かすことに関しても、正答率は低い。

また、物語の読み取りについては、登場人物の相互関係や心情の描写に気づき、表現の効果を考えることにも課題がある。

問題形式としては、記述式の問題の正答率は、全国平均を下回っており、感想を理由付けすることや、文章の記載内容を含めて書くという条件を満たすことに、課題が見られた。

算数・・・見取図をかく問題、球と直方体を用いた体積の問題の正答率が低かった。図形に関する基礎理解はできているものの、空間的に図形を捉えることに課題があると思われる。

何問かにわたった、速さを使った問題も全国平均の正答率を下回った。今回は、分速を用いた問題であったが、この原因には、時間の単位と、速さの考えのベースとなる割合の考え方に課題がある。時間と分の変換ができていない誤答や、速さを単位量の計算で求めようとしていない誤答が多く見られた。

データを用いた問題の正答率も、全国平均を下回るものが多かった。円グラフ、折れ線グラフを読み取り、割合を求めたり、記述したりする問題、二次元の表から必要な情報を読み取り分類整理する問題などである。これらの誤答傾向としては、必要な情報に着目することはできているが、その後の計算や、言葉の記述に課題が感じられる。

質問調査・・・生活習慣においては、読書、スポーツの割合が高かった一方で、動画、ゲーム、SNSにも時間を費やす割合が非常に高かった。その数値は96%にもなる。さらに、平日に1日当たりそれらに費やす時間も、2～4時間以上の割合が全国の数値よりも高い。

また、家庭学習の時間の長さが非常に短く、1日1時間未満だと回答した児童は約7割にもなった。

【課題克服と学力向上への取り組み】

国語、算数ともに共通する、「話す、聞く、書く」の全てに繋がる言語能力を高めていくために、授業づくりへの取り組みを行う。子どもが自ら学び、互いに学びあえる授業の創造を目指し、意見交流やペア、グループ学習の場において、相手の意見に「賛同、反論、付け加え、提案」などを行い、思考の循環を形成していけるよ

うにする。また、国語においては文章の描写表現に関しての課題も克服していくために、今年度も読書活動に力を入れ、学校司書と連携して朝読や家読に継続して取り組んでいく。

算数においては、低学年から系統立てて図、表、数直線、算数用語等を習得し、問題解決の手立てとして使えるように指導していく。また、1時間の授業の流れを大切にする。「めあて、見通し、考え、まとめ」等の活動を明確にし、子どもが主体的に活動できる時間を確保した授業づくりをしていく。

家庭学習では、自ら学ぶ姿勢を持ち、学習時間を伸ばしていけるように、4年生以上の学年では「自主学習ノート」に取り組む。その際には、取り組み方がわかるような見本を提示し、子ども同士のノートを交流することで、自主学習の質を向上させていきたい。